

令和3年度スポーツ庁委託事業
障害者スポーツ推進プロジェクト
～障害者スポーツ用具活用促進事業～

成果報告書 概要版



(公財) 福島県障がい者スポーツ協会

1 事業趣旨

【1】事業の背景

- 福島県障がい者スポーツ協会：県内障がい者スポーツの振興を総合的に推進するための組織として、各スポーツ教室の開催やスポーツ指導員の養成を行うなど、中核的な役割を担う。
→「運動導入教室」では、運動をはじめるきっかけの場として、運動指導はもちろん、補装具等についての相談・指導等を行う。
→「種目別スポーツ教室」では、県内各競技団体と連携し、各競技種目に専門的に挑戦できる機会を設けている。

- これらの成果等により、障がいのある人たちが継続的にスポーツに取り組むことのできる環境は整いつつあるものの・・・、
特に用具が必要なスポーツ(競技)については、気軽に挑戦することが未だ難しい状況にある。

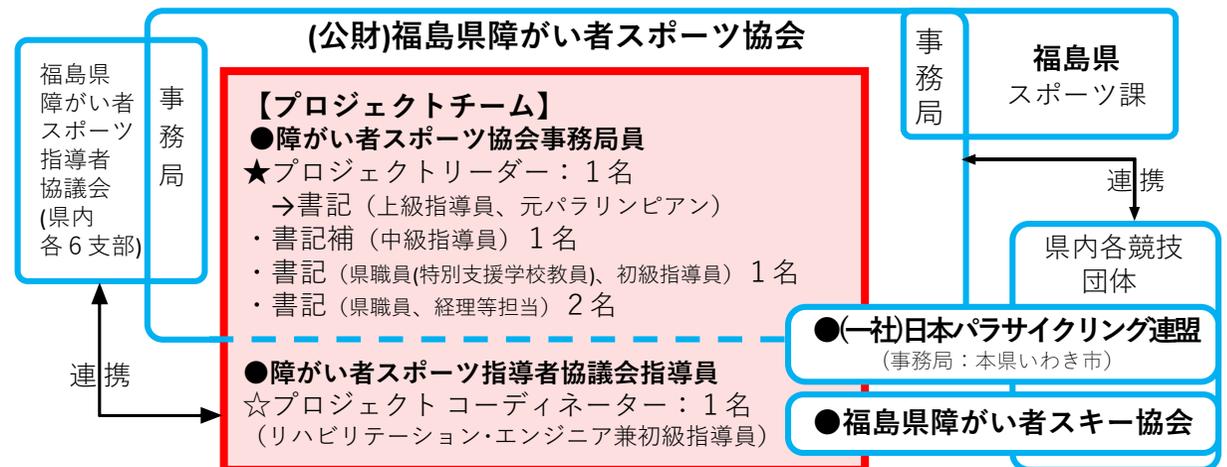
【2】事業の目的

- 福島県障がい者スポーツ協会のこれまでの事業実績やノウハウ、各団体等とのネットワークを活かしながら、
貸出可能な障がい者スポーツ用具の拡充を図ることで、これまで以上に多くの方が、多様なスポーツに取り組める環境を整備する。
- また、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛が、健康二次被害となるなど、障がい者にとっても深刻な問題となっている現状を踏まえ、屋外で実施可能なサイクリングとスキーに必要な用具を整備することで、コロナ渦における健康増進にも寄与する。

2 事業実施体制

福島県障がい者スポーツ協会事務局に、本事業のためのプロジェクトチームを設置した。
チーム員には、協会が実施している各種事業に長年携わってきた、リハビリテーション・エンジニアである指導員をコーディネーターとして配置、この他、関係競技団体で構成することにより、確実かつ効果的な事業遂行体制を確保した。

【事業実施体制イメージ】



3 取組内容

【1】整備した用具等

- ① ハンドバイク 20インチ駆動輪 × 1台
（シティ7・若年者仕様）
- ② ハンドバイク 16インチ駆動輪 × 1台
（シティキッド・子ども仕様）
- ③ バイスキー × 1台
（バイユニーク・子ども仕様）
- ④ チェアスキー × 1台
（普及モデル・若年者仕様）



①ハンドバイク(20インチ)



②ハンドバイク(16インチ)



③バイスキー



④チェアスキー

【2】体験教室

～パラサイクリング体験会・体験教室～

①パラサイクリング体験会@運動導入教室

- 日時：令和3年12月17日(金) 18時～20時30分
場所：福島トヨタクラウンアリーナ メインアリーナ（福島市）
概要：県障がい者スポーツ協会が開催する、運動導入教室の参加者・スタッフを中心に体験会を開催。
スタッフ：県障がい者スポーツ指導員等3名、事務局4名
参加者：7名（+付添いの家族6名）



②パラサイクリング体験教室

- 日時：令和4年1月16日(日) 9時～12時10分
場所：いわきFCパーク 駐車場（いわき市）
概要：(一社)日本パラサイクリング連盟と連携し、公募した参加者を対象に体験教室を開催。
講師：(一社)日本パラサイクリング連盟 沼部早紀子コーチ
スタッフ：県障がい者スポーツ指導員3名、エンジニア1名、事務局4名
参加者：6名（+参加者・スタッフの家族6名）



3 取組内容

【2】体験教室

～パラスキー体験教室～

①第1回パラスキー体験教室

日 時：令和3年12月19日(日) 8時30分～15時00分
場 所：グランデコスノーリゾート（耶麻郡北塩原村）
概 要：福島県障害者スキー協会と連携し、
公募した参加者を対象に体験教室を開催。
講 師：福島県障害者スキー協会長 小林 清美
スタッフ：県障害者スキー協会5名、事務局2名
参加者：3名（+参加者の家族3名）



②第2回パラスキー体験教室

日 時：令和4年1月23日(日) 8時30分～14時00分
場 所：グランデコスノーリゾート（耶麻郡北塩原村）
概 要：福島県障害者スキー協会と連携し、
公募した参加者を対象に体験教室を開催。
講 師：福島県障害者スキー協会長 小林 清美
スタッフ：県障害者スキー協会4名、事務局2名
参加者：1名（+参加者の家族3名）
※他2名の申込みがあったが、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、
直前に欠席の申し出があった。



～各体験教室（会）の実施を通して～

・パラサイクリング、パラスキーともに始めて体験する方が多く、過去に経験したことがある方でも数える程度の回数であった。参加者からは、「想像していた以上にスピードが出て楽しかった、気持ちよかった」、「**こうした(体験教室等の)機会がないとなかなか体験できない**」、「**また挑戦したい**」という感想が多く聞かれた。

・一方、用具のフィッティングや扱い方（サイクリングはブレーキの掛け方、スキーは転倒方法やアウトリガーの使い方など）に加え、安全面の観点（サイクリングは周囲の安全確認の声掛け、スキーはバケッティングやリフトの乗降補助等が必要であること）からも、**競技指導に精通したスタッフやエンジニアによるフォローが不可欠である**と感じた。

4 評価指標（評価結果、課題等）

【体験教室の参加者数】

①パラサイクリング

- 目標：障がいのある人の体験 12名（2日間計） + 障がいのない人の体験 10名（1日） ⇒計延べ22名
- 結果：障がいのある人の体験 13名（2回計） + 障がいのない人の体験 18名（2回計） ⇒計延べ31名

②パラスキー

- 目標：障がいのある人の体験 10名（2回計） + 障がいのない人の体験 10名（2回計） ⇒計延べ20名
- 結果：障がいのある人の体験 4名（2回計） + 障がいのない人の体験 0名 ⇒計延べ4名

→結果に対する評価及び課題等について

- ・体験教室については、新型コロナウイルスへの対策もあり、事前登録の参加者及び家族、指導員のみ限定して実施した。このような中でも、パラサイクリングについては、目標を上回る方に体験してもらうことができた。
- ・一方、パラスキーについては、フィッティングと使用方法の説明など、乗車して体験するまでに一定の時間を要するため、今回は、家族など障がいのない人に体験してもらうことは（安全性と時間を考慮して）難しいと判断した。

5 今後の活用及び推進方法

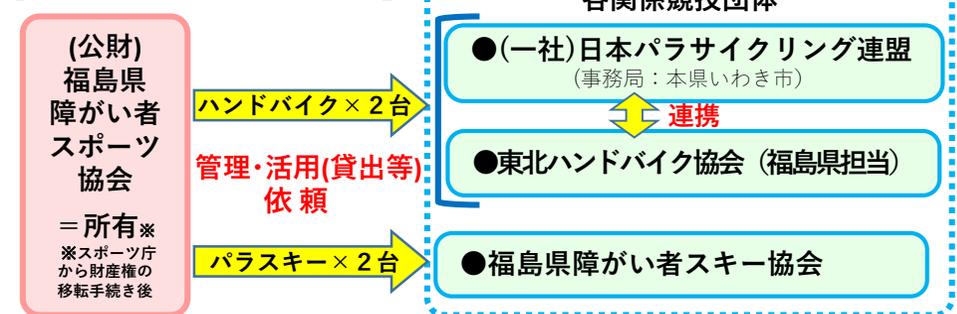
・今回整備したスポーツ用具について、ハンドバイク2台は、(一社)日本パラサイクリング連盟（事務局が本県いわき市）及び東北ハンドバイク協会（福島県担当）に、バイスキー及びチェアスキーは、福島県障害者スキー協会に、**普段の管理(保管)・活用を依頼**することとした。

当協会は用具の貸出について広く周知し、**(貸出)希望があった際は各関係競技団体と連携の上、該当希望者への指導及び貸出を行う**こととする。

・当協会、各関係競技団体が独自に開催する既存の教室やイベント等でも積極的に活用していくことで、より多くの方に参加してもらえるようにする。

まだまだ多くの障がい児・者が、専門的な競技スポーツを体験できる機会も、知るきっかけも少ないことから、当該事業で整備した用具を活用することで、**これまで以上に様々なスポーツに挑戦してもらえ体制を作り上げていく！！**

【用具の活用・推進体制イメージ】



【役割】

- ・貸出周知
- ・希望者と各関係競技団体とのマッチング※
- ※(当協会の)教室事業や出前講座の活用も検討
- ・修理/部品交換等(費用負担)

【役割】

- ・周知協力
- ・希望者への貸出対応 (使用方法・安全管理の指導等含む)
- ・(各関係競技団体の)体験教室やイベント等でも活用
- ・メンテナンス/日頃の点検等

本報告書は、スポーツ庁の令和3年度委託事業として、公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用促進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。